

平成 28 年度

第 1 回「あいパル」運営委員会報告

日 時：平成 28 年 5 月 26 日（木）19:00～20:30

場 所：上戸田地域交流センター「あいパル」 研修室

出席者：上戸田町会連合会 4 名、戸田本町商店会 1 名、サポーターズ
倶楽部団体会員 1 名、サポーターズ倶楽部個人会員 1 名
一般公募 2 名、戸田市 4 名（福祉総務課、図書館・郷土博物館、
協働推進課、生涯学習課）、指定管理者「フレンドシップ上戸田
共同事業体」 3 名 以上 計 16 名（欠席 1 名）

開会あいさつ

新旧交代で新たに参加されます 3 名の委員を迎え、本年度もあいパルの施設運営やイベント運営について協議し、公平公正な地域交流の場としての機能が果せますように運営委員会を開催します。本年度もよろしく申し上げます。

本年度の委員の紹介後、次第に沿って進めさせていただきます。

議題 1 「あいパル一周年記念イベント」のイベント名、 テーマを考える

- 一周年の感謝の気持ちやありがとうの思いを含め、本年度のキャッチコピーやテーマを提案し、協議する。

= 意見交換の抜粋 =

- ・多世代交流の場を強調して「あいパルからつなぐ、戸田の未来」「あいパルからはじまる、共に生き共に生きる未来」などの「戸田の未来」「ありがとう」「あいさつ」をイメージしてはどうか。
- ・戸田市の市制施行 50 周年と同じキャッチコピー「わたしがつなぐ、戸田の未来」にしてはどうか。
- ・「戸田の未来」をイメージする提案があり、50 周年のイベントとして開催することが可能であれば、戸田市の 50 歳とあいパルの 1 歳の誕生日をテーマにするとよいのではないかと。
- ・市制 50 周年記念イベントでは、婚姻届を提出する方を募集している。
- ・金婚式や誕生日のイメージを伝えるのはどうか。
- ・50 歳と 1 歳のバースディパーティにすると、世代を繋ぐ感じが良い。
- ・50 歳の人と 1 歳の子を抱っこしている写真でポスターで表現するのがよいのではないかと。
- ・1 周年、2 周年では硬い感じがするので、身近に感じる誕生日のイメージにしたらいのではないかと。
- ・「ほっこり」「ほのぼの」とした癒しのネーミングが最近流行っているので、「おいでよ！あいパルへ」「あいパル バースディパーティ」のようにしてはどうか。

<協議の結果>

あいパルの 1 歳と戸田市の 50 歳と一緒に祝う意味を込めて、あいパルの一周年記念イベントのキャッチコピーは市制施行 50 周年のキャッチコピー「わたしがつなぐ、戸田の未来」とします。あいパルからはじまる、あいパルに来て、みんながつながるイメージをイベント名にして「おいでよ！あいパルの誕生^{バースディパーティ}祭」を案とする。

議題2 昨年の提案について

一周年イベント「やさしいコーナー」について

- 昨年度の運営委員会でイベントの提案があった「やさしいコーナー」の運営方法について検討する。
- 貧困家庭の支援を踏まえ、子どもの成長により使用できなくなった文具・衣類などを必要な方に譲って使用してもらうために「やさしいコーナー」を開催する。

= 意見交換の抜粋 =

- ・交換会だと、上手くマッチングできない場合があり、当日の持込みにするとフリーマーケットのような形になる。
- ・引き取り手がなかった物をどうするかが問題になる。
- ・これまでも祭でフリーマーケットを開催しているが、出店者が売れ残ったものをそのまま置いて帰り、ゴミ処理として経費がかかる。
- ・フリーマーケットはプロが出店することがあり、受付時にはわからない。ゴミ捨て場のようにもなってしまう。
- ・残ったものは提供者に引き取りにきてもらうと良いので、連絡先を聞いてはどうか。
- ・連絡しても引き取りに来ない場合が考えられる。
- ・事前に品物を受付する必要があることから、保管場所と受付業務の担い手の確保をどうするか。
- ・あいパルでも、保管場所に困るのではないか。
- ・いらぬものを処分するという感覚で持ち込まれると、引き取り手のない物ばかりになってしまう危険性がある。持ち込む品物を検品しなければならない。
- ・災害後の支援でも、使用した衣類の処分が大量に届き、困っていると聞く。
- ・子どもの貧困対策の意味もあるので、毎年買い替える家庭もあれば、小さい物やぼろぼろになっても使用している家庭がある。卒業間近に購入した制服や体育着など、譲り受けられるとお互いに嬉しいが、地域コミュニティが薄くなっているので、知り合いから譲り受ける関係や情報がなくなっている。
- ・手作りのものであれば、作り手の思いが込められたものなので、残っても持ち帰るのではないか。ご高齢の方は趣味の手作り品を友達に配って生きがいにしている方や、ハンドメイドアクセサリを紹介したい若い女性もいるので、従来型のリサイクルのフリーマーケットではなく、手作りの品のショップはどうか。
- ・ハンドメイドのマーケットは男女共同参画推進社会を進めるうえでも、趣味を生かして就労を目指している方の応援にもなる。
- ・使ってくれたら嬉しいという気持ちで提供してくれて、提供者の顔が見える方法で受け取れば、残らないのではないか。
- ・ハンドメイドだと販売価格を抑えられないのではないか。小物やアクセサリが多くなって衣類はなかなか作る人がいない。
- ・出品する人も引き取る人もお互いの顔が見えないと、引き取り手がないものや交換コーナーにふさわしくないものが集まる可能性があり混乱が予想される。
- ・条件を付けて提供してもらう、ボランティアグループを結成して運営してもらうなど、解決しなければならない問題がいくつかあり、開催には検討を要する。

<協議の結果>

開催にいたるまでには、品物の事前回収の方法と管理、引き取り手がなかった残った品物の管理・処分、事前と当日に運営をするボランティアの会の結成等の問題がある。また、地域の方のハンドメイドの作品の紹介や販売の場としての活用も今後、検討する。

議題3 図書館上戸田分館 「グループ学習室」の利用について

●小中学生を対象にした総合学習や調べ学習の際に、グループで図書館資料を使って、話し合いながら学習できるグループ学習室の今後の活用方法を協議する。(実際にグループ学習を見学してから協議した)

※グループ学習室とは、小中学生の総合学習や調べ学習の際に、グループで図書館資料を使って、話し合いをしながら学習できる部屋です。

= 意見交換の抜粋 =

- ・個人学習室を確保できなかった学生に貸し出す。
- ・高校生のグループ利用を許可する。
- ・例えば英語や理科などのテーマを設け、單元ごとにボランティアが子どもたちに勉強を教える講座のようなものを開催してはどうか。
- ・小中学生が利用できない空き時間を語学習得のフリートークルームとして、1つのテーマに沿って、辞書や関連書籍を利用しながら市民の語学力向上の場として利用してもらう。
- ・18時以降、例えば歴史をテーマにした大人の教養を深めるワークショップを開催する。大人だと図書館の資料を使って互いに教え合うことも可能となる(例:「～研究会」)。
- ・そもそも小学生がグループで図書館に来て調べものをする機会がどのくらいあるのか。
- ・近隣の学校に調べ学習の課題について教えてもらい、その課題を解決するための調べもの学習解決コーナーを館内に設置してはどうか。

- ・学校が出す宿題や課題とリンクしていないと、なかなか自発的に子どもたちが調べ学習で図書館を利用するのは難しいのではないか。
- ・分館は楽しい本が多く、調べもの本が少ないように感じる。
- ・館内でグループ学習室のPRを強化したらよい。

<協議の結果>

利用範囲を広げることやサークル活動的な使い方、また子どもの利用ができない時間帯での有効活用の仕方など、さまざまな意見が出たが、今回はまず本来の設置目的である小中学生の利用を促進する方法から取り組んでいくことにする。その一つとして、学校と連携をし、調べ学習の現状を確認すると共に調べ学習の課題解決を支援するようなコーナーを館内に設置し、その資料を使いグループ学習室を使ってもらう方向性で検討する。

次回開催 平成28年9月29日(木)19:00～
「あいパル」運営委員会は傍聴できます。